

災害ボランティアセンター設置 被災後、多くの人が支援



センター開設後 資機材集め一苦労

私が平成26年から町社会福祉協議会(以下、町社協)で働き始めて2年が経過した頃、熊本地震が発生しました。前震の翌日、職場の片付けをした後、町から協力要請を受け町災害ボランティアセ

ンターの設置に向けた準備を開始。町中央公民館にセンターを設置するように準備を進めていましたが、本震により被災し使用することができなくなりました。振り出しに戻ってしまいました。職員で手分けして電話をかけ、センターの設置場所を探していたところ、手を挙げてくれ

たのが(株)井関熊本製造所でした。体育館とグラウンドを借りてセンターを開設できたのは前震から1週間が経過した4月21日のことでした。この間も「ボランティアに行きたい」という電話がかかってきていたのを覚えています。

センター開設後、私が担当していたのは資材の受け渡しが(株)井関熊本製造所でした。水害を想定した訓練は毎年実施していたため、水や泥を運び出すのに必要なスコップや一輪車などはたくさんありましたが、災害の種類が違うために不足する物もありました。例えば、壊れたブロック塀を運びやすい大きさにするための大きめなハンマーやブロック塀の中に入っている鉄芯を切るためのクリッパー。このような地震災害ならではの必要資機材を調達しましたが、見慣れない物もあり、当初は受け渡し所で提示されるリストに記載されている資機材を集めるだけでも一苦労でした。町社協の職員は私を含め2人で対応していましたが、ボランティアの数人が手伝ってくれたのでとても助かりました。

また、駐車場で車の誘導や、受付開始時間までの待機を促す声掛けを行いました

が、連日多くの人が駆け付け、特に土日はニーズに対する定員をはるかに上回る数になり、お断りせざるを得ないこともありました。遠方から来た人や仕事のスケジュールを調整してきた人もいたので、お断りするのはとても心苦しかったです。

ボランティア活動保険 加入者増える

昨年度は県南で豪雨による甚大な被害が発生した7月以降、ボランティア活動保険に加入する人が増え、加入者は864人に上りました。これは平成30年度の82人、令和元年度の461人と比べて、非常に多いことが分かります。加入手続きをしながら話を聞き、「熊本地震のとき助けてもらい何かしたい」という多くの人の気持ちを感じました。

被災現場での活動は大きな力です。また、センター運営の手伝いや支援金などいろんなボランティアのかたががあります。小さなことでもいいので、自分にできる範囲でボランティアを始めてもらえればと思います。



現地出発前にセンターで資機材の積み込み(熊本地震)



ニーズとボランティアをマッチング(熊本地震)